

孕



はらませアイどるっ!









「あ……う……あ……ああ……」

「ふう、こんなに出したの初めてだわ」

「う……ひぐっ……な……何で……  
こんな……」

「う、うめんっ、興奮しすぎてっい……  
な、泣かないでありすっ、次は

ありすも気持ち良くしてあげるからっ」

「う……き……って……え……？」



「うっ、ひうっーな……に……これっ  
体が……熱……うっ、くっ、うっうっ……」

「媚薬っていつてありすが気持ち良く  
セックス出来るおくすりだよ♪」

「おく……すり……っ……せ……く……す……」

「ありすは難しい」と考えなくて  
いいんだよ♪ほらほらっ

おじさんのチンポが入ってくると  
オマンコ気持ち良くなっちゃうで♪よ……」

「ん……なの……きもちよくな……」

うっ……うっ……うっ……うっ……」

うっ……

うっ……

うっ……







「はっ！はっ！はっ！」

「はっ！はっ！はっ！」

「うっ、あつ、うあつ……  
な、なんでっ、こんな……  
何も…悪い事…してないのに……」

「ああつ!?こんなエロい格好して  
男を挑発しまくっつとして  
何言っつてんだボケがっ!」

「挑発…なんかつ…私…  
してな…あううっ!」

「うるせえっ!お前のせいで  
勃起したんだから当然しずめるのも  
お前の責任だよなあ!」





「あゝ〜イクイクっ  
ぐぐぐぐぐぐ」

「じゅじゅじゅなになに…これ…っ！  
お腹の…っぐ中に…入って…っ!?」

「オラっ、まだまだ出るぞオイっ  
責任とってきつちり孕めやっ!」

「や…、やだやだ…っ、こわい…  
怖いよ…っ! た…たすけ…っ  
あああああっ!」

ヤッ!

ヤッ!

ズン!

ズン!

ズン!

「ふいふ、我ながら  
ドバドバ出たわ」

「あ……う……あ……は……ああ……」

「おいおい、」発っただけで  
呆けてんじやねえぞコラ  
「こちとらまだガッチガチなんだからよ」

「……あ……う……え……え……？」

オ、オ、オ

オ、オ、オ





「うっ、ひうっ、な…に…れ…っ  
頭…白く…うっうっ…」

「単なる媚薬だけど効果は  
あったみたいだなあ  
雌の鳴き声になってんぞおいw」

「うっ、体…っ、熱くて…っ  
何も…考えら…れな…っ、うっっっ」

うっっ

うっっ  
うっっ



「オラまた出るぞっ  
ありがたく受け止めるやっー!」

「あっ、あっ、あっ!」  
ま…また出て…っ、熱…っ!」

「ちげえたるオイっ  
さっき教えてやったたろうがっー!」

「あ…ありがとっ…っ  
「ごさいまひゅ…っ♡  
ざーめんいっぱい…っ  
ありがとっごさいまひゅっっ!」

来♡

「お嬢様マンシ」いただきっ—」

「いっ…っ、ひっ、ぐうっ!」

あ…あなたたち…「んない」としてっ…っ  
どうなるか…っ、わかってますの…っ!」

「お前」そわかってんのか?

「これから自分がどうなるか…ふんっ—」

「な、何を…へいんんんんんん」

びんちん! びんちん!

びんちん!



「あつ、あつ、あつっーやっーやめっーっー!!  
い・痛・っ、うひひひひっー!!」

「ハハハっー! さっきまでの威勢は  
どうしたよオイー!」

「な、なんでっ、わたくしがっ  
こんなっ、ああああっ!」

「お前みたいな純粋培養のお嬢様を  
墮とすのが大好きでねえw  
せいせい楽しませてくださいやー!」

あつあつ!

あつあつ!

あつあつ!



「ああ〜出る出るっ  
お嬢様マン」に種付けっ、ぐんぐんっ」

「で…出るって…あ…あ…  
「…れ…まさか…っ」

「おっ？桃華ちやまはご存知で？w  
これは精液といっまじってねえ…w」

「だ…だめですわ…っ、と…止めてっ…  
出すの止め…っ、あ…あ…あ…っ…  
あああああっ！」

「ッ！ッ！」

「ッ！ッ！」

「ッ！ッ！」





「あ……あ……」「……こんな……  
わたくし……妊娠……つ  
してしまおうんですの……？」

「いやいやw  
たった一発の中出しで孕むとは  
限らないですよお嬢様」

「あ……ほ……本当……ですの……？  
そ……それなら……」

「まあ一回で終わらないから  
意味ないんですけどねえw」

「……え……？」

「わーっ」

「わーっ」

「お……」



「うっ、ひぐっ、うううっ！  
わっ、わたくしに…な…何を…  
したん…ですの…っ、くううううっ！」

「お嬢様にも気持ち良くなって  
もらおうと媚薬をちよつとねえ  
どっやら効き目は抜群なよっでっ」

「効き目なんて…っ、ありませんわ…  
また精液が出る前に…っ、早く…抜いて…  
うううううっっっ♡」

うっ！

うっ！

うっ！

「ま、また出て…っ、あああああっ♡  
あ…熱…っ、も…っ、もうっ、入りきらな…っ  
あああああああっ♡」

「ハハハッ！中出しされてんのに  
嬉しそうな声出しやがってw  
お嬢様アイドルもこうなっちゃうおしまいだなw」

「う…、嬉しくなんて…あうっっ♡♡」

「説得力ゼロだなwオラッ奥まで  
流し込んでやるからいい声で鳴らしてみろやー」

「ああ…っ…しゅ…っ…しゅ…っ…いっ♡  
奥、グリグリって…あああああああっ♡♡」

！  
ガッ  
ガッ

！  
ガッ  
ガッ

！  
ガッ  
ガッ



「やだやだっーや、やめっー！  
ひっ…ぎっ…ううううっっ」

「おっ、なんだコイツ処女かよw  
ビッチ臭半端なかったけど  
案外掘り出しモノだったかw」

「ひぐっっ、信じ…らんないっっ  
サイ…アク…っ、なんで…こんな…っ」

「へっwまあそう嘆くなよw  
俺が天国見せてやっからよおw」



「うっ、あうっ、痛っっ  
もっっ、もうっ、やだっ、やだようっ」

「へへっww気の強そうながキかと思ったら  
中々嗜虐心そそられるじゃねえかw」

「ひぐっ、ううっ、たすっけてっ  
たすけてようっ…お姉ちゃんっ」

「ハハハハッ…いっぞいっぞっ  
もっとなんかしてくれやっ  
ホラ鳴けっ、もっとなんか鳴けよっ」

「ああああああっ」

「あうっ」

「あうっ」

「あうっ」



「ああ〜出る出る」  
褒美に奥まできっちり  
中出ししてやるよっw」

「出る…って…え…、あ…ああ…っ  
う…うそ…でしょ…」れ…っ」

「たっぷり溜め込んだ特濃ザーメンだからなあw  
遠慮しないで孕んでくれやw」

「どくどく…って…アタシの中…  
ホントに…入って…あ…ああ…  
やだ…やだやだ…っ、やだあああっ」



「あ…あ…お腹…熱…っ…  
アタシ…ほんとに…射精……されて…」

「へへっw放心中に悪いけど  
まだまだ休憩には早いぜ莉嘉ちゃんw」

「…あ…う…え…？」

「莉嘉ちゃんの中の俺のチンポが  
まだガッチガチなのわかるだろ？  
そういうことなんだわw」

「…う…そ…でしよ…？」

「わー」

「わー」

「んんん」



「うっ、あうっ、なに…これっ  
あたま…へんに…ひょううっ!」

「莉嘉ちゃんも気持ち良くなれるように  
媚薬をちよっとねwほらほらっ  
さつきより断然良くなりましたっよっ」

「なに…いって…っ…うっ  
そん…な…わけ…んうっ!」

「わかりやすいなあw  
ま、じっくり楽しみますかねw」

「ん!」

「ん!」

「ん!」



「ん!」

「ん!」





「イクイクっ…ぬるっっー」

「ま…っ、また…なか…っ！  
もう…入り…きらな…あああっ♡」

「ああ…まだまだ出るわ出るわっ  
ぐひっw出す度に精液が溢れてくるけど  
どんだけマンコに溜め込んでんだよw」

「そんなの…っ…しらな…っ、ああ…っ…  
まだ…っ、出て…あっ、あっ、あっ、あっ、  
これっ、だめっ、やっ、あっ、あっ、ああ…ああ♡」

わっ  
わっ  
わっ

わっ  
わっ  
わっ



「あぁっ、ありすっ、ありすっ！  
ふんっ、ふんっ、ふんっ！」

「あっ♡はっ♡やんっ♡  
だ、だめ…です…っ！  
今日は…っ、私が…あぁあっ！」

「じゅめんっ、でも、ありすの膣内が  
良すぎて腰が勝手に…っ」

「そ、それは…嬉しいですけど…っ  
あっ、あっ、また…っ、下から…っ♡」

あぁっ！

あぁっ！

あぁっ！

あぁっ♡

あぁっ♡





「だ、駄目だ…っ、で、出るっ…」

「あっ♡あっ♡あぁっ♡わ、私の中で  
おちんちん…っ、膨らんで…っ♡」

「ああ、ありすの膣内で  
射精気持ちよすぎて…っ、っ、っ…」

「す、すごい♡まだ…っ、出て…っ  
こ、こんなの…っ、私も…っ、いつちや…  
あっ♡あっ♡あっ♡あああああっ♡」

ニョーン!

ズン!

ズン!





「はあっ、はあっ、はあっ、はあっ…」

「みりあちゃんのおっぱいマン」たまらんっ」

「あっ、はっ、ううっ♡  
おっ、おじさん…っ、激し…んっっ♡」

「っ、っ、めんねっ、みりあちゃんみたいなの  
可愛い子とするなんて久しぶりでっ」

「大丈夫…っ、だよ…っ  
おじさんの…っ、したいように…っ  
…して…っっ？」

「あ」

おっ！

おっ！

おっ！

お

お



「出る出るっ、いいよねっ  
みりあちゃんのお臍内に出っ  
いいよねっ」

「いっ…よ…っ♡  
おじさんのせーし…っ、全部っ  
受け止めてあげる…っ」

「いっ…く…っ、いっ…め…っ」

「あっ♡あっ♡ああっ♡  
す、すっ…いっ♡おじさんのせーしっ  
あつたかくて…っ、気持ちいいよっ」

!ん  
!ん

!ん  
!ん

!ん

!ん

!ん



「はあっ、はあっ、いめんねみりあちゃんっ  
ちよっと乱暴にしちゃったよねっ」

「あ…あ…だ…大丈夫…だよ…  
おじさんが気持ち良かったならよかった」

「んんん」

「あはっ♥中でおじさんののが  
ピクピクって動いた…  
もう一回…する…?」

「ポ」

「あ」

「あ」





「で、出る、出る、出る」

「あっ♡はっ♡ああっ♡  
す、すっ♡いっ♡また「ん」なっ♡  
いっばい我慢してたんだねっ♡  
大丈夫だからっ、私には  
全部出していいんだよっ♡」

「みっ、みりあちゃんっ♡  
うっ♡おおおっ♡」

「き、きたっ♡あつたかいのきた  
おじさんのせーしで私もっ♡  
あっ♡あっ♡あっ♡ああああっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」















「はあっ、はあっ、はあっ  
ふう〜、我ながらメツチャ出たわ〜」

「あ…あっ…はっ…はっ…  
や…やっど…射精…止まった…?」

「ゴメン莉嘉ちゃん、もうちよっただけ  
いいかな?追加料金は払うからさ  
オナ禁してたから物足りなくてw」

「あ…あれで全部じゃないって…こと…?  
う…うう…ちよ…ちよっただけ…なら…?」

ズッ





「ま、また出る……うっっっ！」

「き、きた♥す♥い射精きた♥  
頭真っ白になってっ、馬鹿になっちゃっ  
あっ♥あっ♥あっ♥」

「最後の一滴まで……ぬんっっ！」

「あっ♥あっ♥あっ♥  
奥まで……っ、赤ちゃんの近くまで入って……っ  
ヤバイっ♥これ絶対ヤバイよっ♥  
ああああああっっっ♥」

ズワッ!

